

4 東山の森づくり

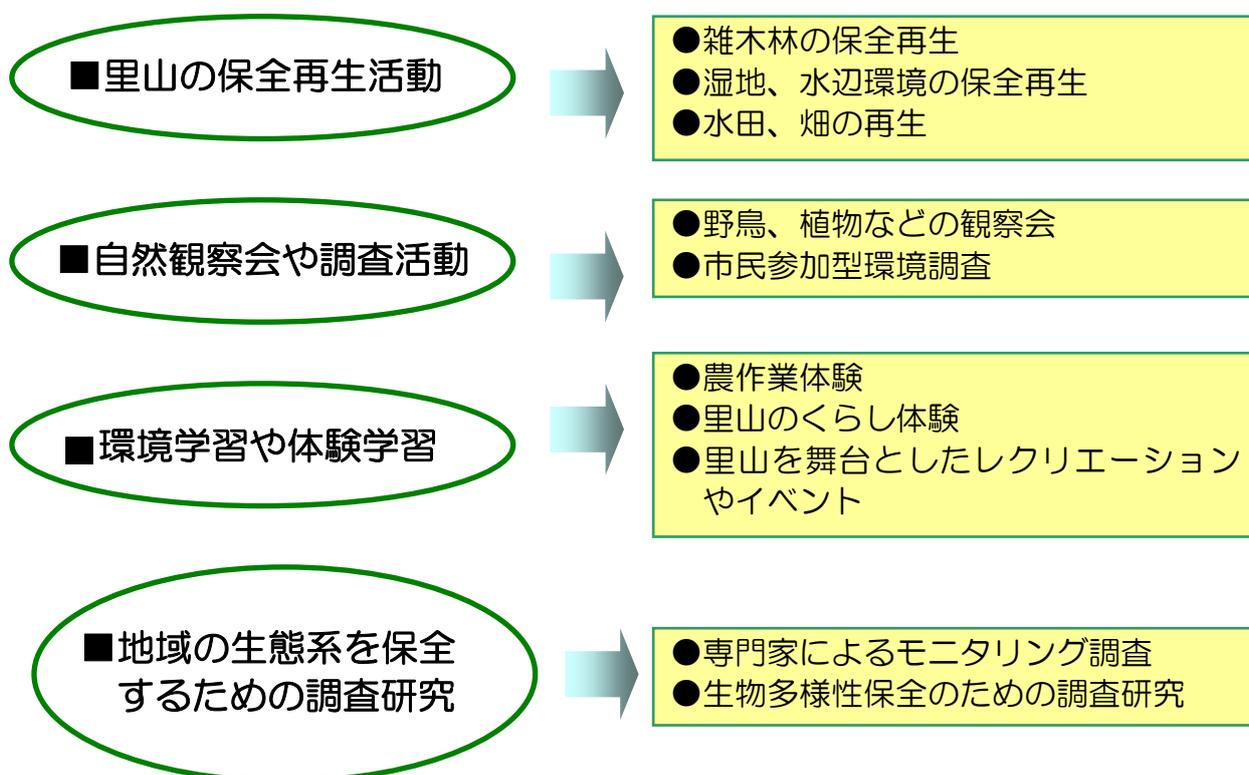
(1) 森づくりの方針

東山の森全体のうち、動植物園区域を除く区域を対象として、森づくりの計画について定める。

森づくり活動の内容は多岐にわたるものであり、市民との協働による雑木林や湿地などの保全・再生活動や環境学習・体験学習等を実施していくものである。

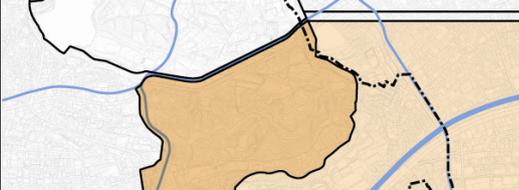
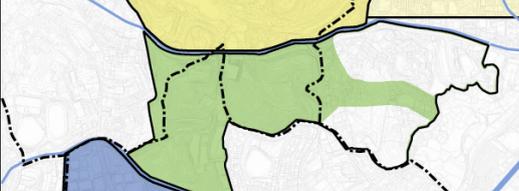
また、森の整備は、森づくり活動と連携し、市民が参加する環境学習・体験学習の場や生物多様性の保全を効果的に実践する場をつくるため、「くらしの森」の基盤整備を行い、市民協働による一層の活性化を図る。「いのちの森」、「うるおいの森」についても、市民協働による森づくりを推進する。

【森づくり活動のイメージ】



(2) 整備計画

【整備区域図】

5つの森	整備区域・施設
 <p>へいわの森 平和公園北部（墓園）地区</p>	<p>整備区域・施設</p> <p>（墓園として概成） （平和公園一万歩コース）</p>
 <p>くらしの森 平和公園南部地区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なごやの里山エリア →COP10までに概成 ・水源の森エリア ・雑木林保全エリア （平和公園一万歩コース）
 <p>ふれあいの森 東山公園北部（動植物園）地区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流拠点エリア （東山一万歩コース）
 <p>いのちの森 東山公園中部地区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森の環境学習エリア ・自然復元の森エリア ・サンクチュアリの森エリア ・いきものふれあいの森エリア （東山一万歩コース）
 <p>うるおいの森 東山公園南部地区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水源の森エリア ・サンクチュアリの森エリア ・雑木林保全エリア

ア くらしの森（平和公園南部地区 約58ha）

くらしの森では、人のくらしと自然が共生する里山を再生し、豊かな自然と多様な生き物の生息空間を確保するとともに、里山の生活文化や身近な自然との関わりを体験・体感することによって、自然環境に対する意識の向上を目指す。

(ア) なごやの里エリア

自然と調和したくらしを体感・体験できる中心施設として、里山を背景に、池や小川、水田を再生し、里山の家を設ける。また、あわせて周囲の水辺や雑木林の再生を市民との協働で行い、身近な自然とふれあう場と機会を提供する。

施設整備：池、小川、湿地（アシ原）、水田、畑、里山の家
（休憩所、便所、利用案内、市民活動）など

(イ) 水源の森エリア

生き物の多様性を回復させるハンノキ湿地の再生を進め、周辺の樹林地の手入れを行うなど、より豊かな森に育てていく。

(ウ) 雑木林保全エリア

市民の主体的な参加により、竹の侵食による樹林の荒廃を食い止め、アカマツ・コナラ林を中心とした多様で健全な里山の雑木林を育てる。また、四季の移ろいを楽しみながら一万歩コースを散策できるよう配慮する。

(エ) 土壌環境改善

射撃場跡地の鉛による土壌汚染については、土壌汚染対策指針、名古屋市土壌及び地下水汚染対策検討委員会の指導等に従い適切な対策を講じる。

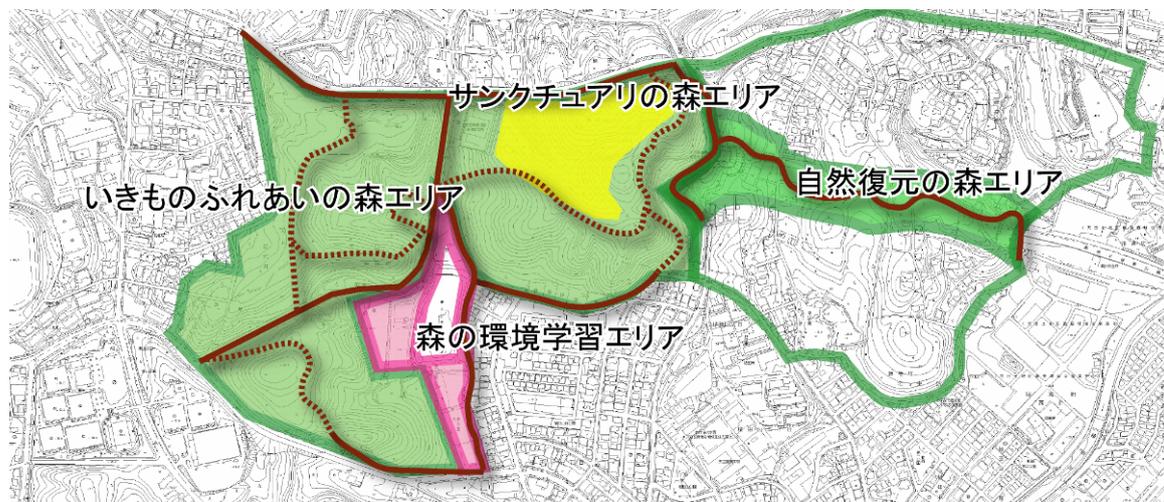
イ ふれあいの森（東山公園北部地区 約98ha）

ふれあいの森の交流拠点エリアは、平和公園と東山公園の重要な結節点であり、人と生き物が出会う場所として、樹林地の復元や原っぱの整備を行う。また、東山の森づくり活動の拠点となり、東山の森のビジターセンターや情報発信センター的な機能を有する施設を整備する。



ウ いのちの森（東山公園中部地区 約80ha）

生物多様性の回復をテーマとして、植樹により再生する森や保護しながら観察をする森、手入れをして保全する森など生き物や生態系に関する環境学習の場とする。



(ア) 森の環境学習エリア

生き物や生態系に関する環境学習のフィールドとするとともに、東山公園中・南部地区（いのちの森・うるおいの森）における森づくりの活動拠点とする。

(イ) 自然復元の森エリア

森づくり活動団体との協働により宅地跡や農地跡に植樹をして森の再生を図る。

(ウ) サンクチュアリの森のエリア

谷の地形を生かしてサンクチュアリ（生き物の保護区域）を設定し、生き物や森の遷移を観察する場として活用する。

(エ) いきものふれあいの森エリア

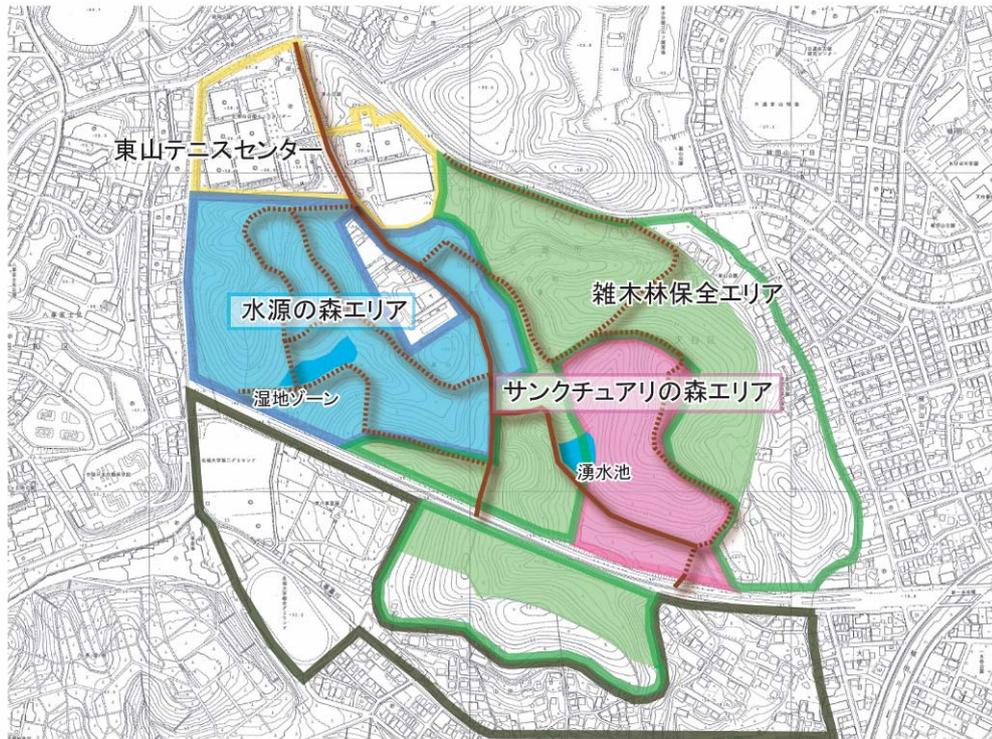
ため池、雑木林などを保全・再生し、鳥や昆虫などの生き物とふれあう森とする。



竹の侵食を抑制し雑木林を保全する作業

エ うるおいの森（東山公園南部地区 約79ha）

かつての天白溪の豊かな自然を目指し、起伏に富んだ地形を生かしながら、散策や自然観察の場として雑木林を保全するとともに、市内では貴重となった湿地や湧水池を再生する。



(ア) 水源の森エリア

森づくり活動団体と協働して、天白溪湿地、流れの再生を図る。

(イ) サンクチュアリの森エリア

湧水池の保全・再生とサンクチュアリ（生き物の保護区域）の設定により自然観察の場として活用する。

(ウ) 雑木林保全エリア

アカマツ・コナラ林を中心とした多様で健全な里山の雑木林を育てていく。



天白溪湿地の復元作業